

『武神は軍師に酒を注ぐ』

作者:はてい

登場人物

(主人公級)

武神(義勝)・・・戦いが好き。猛将。

軍師(君貞)・・・人間味のある軍師。義勝に振り回されている。

(脇役)

味方兵・・・数名(セリフ少しあり)

敵兵・・・数名(戦う場面あり)

化粧屋の娘・・・1名、軍師との対話あり

本編スタート

酒造りをしている武神

武神:ふう…。酒造りはやっぱり難しいなあ。慣れたもんじゃねえ…。あいつが言ってたこと、間違っちゃいなかったな。こりゃあ夜襲仕掛けられる方が何倍も楽だわ…。

:

0:場面転換

0:約数年前

0:合戦場、本陣にて

武神:本陣待機なんてもう我慢ならねえ…こんな狭いところで待つだけじゃ面白くもなんともねえじゃんかよ！俺あもう行くぞ！！

軍師:ちょっと！勝手に行かな…！…仕方がない…。皆さん、武具は最小限に、とにかく彼に追いつくことだけを考えて走ってください。

兵:最小限…ですか？

軍師:…？ああ、彼が通った後はどうせ雑兵しか残りませんから。刺客だけには警戒をよろしくお願いします。

0:場面展開

0:合戦場、最前線にて

武神:...よっしゃー！広いところ出たー！鉄がぶつかり合う音、血の匂い。やっぱり戦さ場はサイコーだなー！！

兵:報告申し上げます！現在我らが劣勢で...

武神:なに？劣勢だあ？！そりゃあ.....面白そうだなあ！！ちょいとその槍借りるぜ！見てろよオレ様の大立ち回り！

0:武神、敵陣に突っ込み敵を薙ぎ払う

うおおおおりゃー！！はっはー！戦はこうでなくっちゃなー！おめーらも楽しめよ！

:

0:合戦場、本陣にて

軍師:…まったく、わかりやすいものしか叩かないのだから…よりもよって真ん中を突っ切って行くだなんて。いつもいつもほんとにもう…。もっと相手の策を読んで行動を…。…まあいいで

しょう。彼が迎えば堅固な守りも崩れるはず。この勢いに乗じて…。うう、我ながらなんと安易な…。

O:伝令役が駆け込んでくる

兵:ご報告申し上げます！＊義勝《よしかつ》殿、敵の本陣前までご到達！最後の要を破られました！

軍師:ほう、それではもう本陣に攻め込んだ頃ですね。

兵:いや、それが…その…敵本陣直前で方向転換し…右陣の将を討ちに…

軍師:…え？(困惑)……………は！て、敵本陣にこちらの左陣を送ってください！！ほんとに何を考えてるんだか！！

:

O:祝勝会にて

O:武神、他の兵と共に大酒を呑む

武神:はっはっは一楽しいなあ！歌い踊るはサイコーの肴よ！やはり宴はこうでなくちゃな！ほら！歌を頼む！俺も踊るぞ！！

O:少し離れたところで呑む軍師

軍師:まったく…馬鹿騒ぎをして、なにが楽しいのだから。酒は食事に合わせて少量ずつ頂くことで、真の美酒へと成り上がる。これぞ至高。酒だけ浴びるように飲んでも、それはただ味の付いた水に過ぎん。まさに愚の骨頂だ。

武神:はっはっは一！…？おうおう軍師さまよお。なにを淋しく呑んでるんだあ？

軍師:…あなた、なぜこちらへ。あちらで愉快地に酒盛りをしていなさい。

武神:連れねえこと言うなよ！…？！なに考えてんだ宴だぞ！？全然飲んでねーじゃねーか！ほれほれ！

軍師:ちょっと！私はこんなに要りません！注がないで…注ぐな！

武神:お前さんからすれば、ただの水なのだろう？

軍師:私は少しずつ頂きたいのにっ！

武神:ほらグイッといけ！ほらほら！

軍師:ちょっと無理矢理飲まさないでぐぐぐぐぐ…。

O:少しの間

軍師:……………いつもいつも貴様のせいでえ！わたしの策は崩れてばかりじゃないかあ！！なのにあるうことか貴様が戦場に出るだけでえ戦況がひっくり返ってしまう！！何も考えてなくせにい！これじゃわたしのいる意味がないじゃないかああ！

武神:は一っはっはっは！！それがお前さんの本音かあ！俺は悲しいよお！

軍師:うるさい！！お館様！！こいつう、こいつに暇を出してくださいい！こんな暴れ馬がいては策もなにもないじゃないかあ！

武神:お館様、俺も軍師様の策にゃーいらねーみたいだ！故郷で酒でも造るかなあ！

軍師:貴様みたいなガサツ者に酒なんか造れるかああ！

武神:そうカリカリするな！女も寄り付かんぞ？

軍師:うるさああい！

武神:はっはっは一！愉快だなあ！！

:

O:翌日、城下町にて

武神:やっぱり城下は賑わってていいなあ！！

軍師:うう…頭が痛い…。この賑やかさが今だけは憎い…。

武神:まったく…お前さん、昨日あんな飲み方するからだ。悪酔いでもしたんじゃないのか？

軍師:あなたが無理矢理飲ませるからだ！私はもっとゆったりと楽しみたかったのに…。

武神:はっはっはー！

軍師:まったく…さ、店に着きました。あなたは外で待っていてください。

武神:化粧屋あ？へいへい興味もねえ。待ってるよ。

O:軍師、お店へ入る

軍師:やあ、こんにちは。

娘:いらっしやいませー！

軍師:今日も美しい品が並んでいるね。

娘:ありがとうございます。ですがお侍様、どうしていつもこんな女物のお店へお越しになるんですか？

軍師:ん？それは、心が洗われるからさ。戦場ばかりでは気が病んでしまうからね。血生臭くてやっつけられない。

O:外にいる武神

武神:…なんかあいつ楽しそうに喋ってるな…。ちょっとくらい聞いても…。

O:武神、耳を立てる

軍師:…お、今日はこの香を頂いて帰ろうかな。ああ、それと、(小声で)今夜、使いの者を送る。とても綺麗な花が咲く庭があるんだ。ぜひ来てほしい(ここまで小声)。

武神:?!今夜…庭…花あ?!こりゃあ、面白そうじゃねえか…！

軍師:それでは、また来るよ…。

武神:…おおっと、出てきちゃう。

O:店から出る軍師

軍師:…はあ、緊張した…。これなら策を練っているほうが何倍も楽だ…。

武神:よお、早かったな。

軍師:なんですかそのニヤついた顔は？気色悪いですよ。

武神:ああ、そこに良さそうな酒屋を見つけてな！

軍師:あなたは頭に酒と戦しかないのですか？…用は済みました。帰りますよ。

武神:へいへい。

:

O:月夜の城内園庭、軍師と女性、陰に武神

武神:(小声で)おお、いたいた！こりゃあ良い時に来たぞ…！

軍師:農家の出なんて関係ない！私は「あなた」を愛しているのです！

武神:良いことじゃねえか…！

軍師:あの月が優しく照らすように、あなたのその優しい笑顔で、私を側で照らしてほしい！

武神:お前さん詩もできんのかよ…！こりゃ勝ちだな…！

娘:あの軍師様！聞いてください…！私…

軍師:…?!そんな…農作業ができるくらい…体躯の立派な人がいい…？

武神:?!なんだと?!こりゃまずい流れに…(ここまで小声)

娘:これで…失礼致します！

O:娘、走って退場

軍師:ああ待って…!!そんな…。

O:ほんの少しの間(軍師、武神を見つける)

軍師:!?なんであなたがこんなところに!?

武神:よ、よお！今夜は月が明るいなあ！こんな日にゃあ散歩に限る！

軍師:…はあ…。見ていたのですね。誰に聞いたか分かりませんが、面白いものを見たでしょう。

武神:…。

軍師:…ええ笑いなさいよ！いつもの下品な馬鹿笑いで！

武神:…。

軍師:…なぜ笑わないのです…。

武神:…お前さんは頭が良いし、教養もある。頭すっからかんで力だけが取り柄の俺と比べりゃ、何倍も良い男だと思うぞ？

軍師:…どうせ私は貧弱な男だ…。

武神:いや、まあ、あの女がそういう男が良かったってだけだろう？気い落とすなよ。

軍師:…珍しく、あなたに感謝の気持ちが溢れていますよ。

武神:「珍しく」はいらねえだろ。まあ、なんだ。こんな時は酒だ酒！呑みに行くぞ！

軍師:いや、あなたとは飲みに行きません。

武神:…行かねえのかよ…。

O:少しの間(兵が焦って登場)

兵:はあはあはあ…！御二方！ここにおられましたか！！

武神:？どうしたよ、そんなぜえぜえ息を切らして？

O:暗転

:

O:城内にて

武神:夜襲、か…。

軍師:(M)…ここまで攻め込まれたのは初めてだ。(M)連絡網も今ではほとんど役割をなしていない。(M)戦況が一切わからない…。(M)攻め落とされるのも時間の問題だろう。(M)一刻も早く体勢を立て直さなければ。

武神:右向けば敵、左向いたら敵、真ん中にも敵…敵、敵、敵。完全に囲まれてるなあ。こりゃ遊んじゃいられねーか。まずは真ん中こじ開けるか…！

軍師:あなたはお館様のお近くにいなさい。もし攻め込まれようものなら、お館様をお守りできるのはあなただけです。

武神:？！何を言ってやがるんだ！俺あこんなときに後ろでのんびりしてるのが嫌いなんだよ！！第一、俺が前線に行った方が士気も上がったろ！俺が全部薙ぎ払ってや…

軍師:(被せ気味で)いいから！！一度くらいは、私の策に力を貸してください。…私は前線で直接指揮を取ります。報告を待っている時間が惜しい。

武神:うるせえ！酒もろくに呑めねえ軟弱者がはしゃいでんじゃねーよ！

軍師:は？！今はそんなこと関係なッ…

武神:(被せ気味に)てめえは頭が良いんだろ？ちっとは考えろ。もしもの時、どうやってお館様を安全に逃すんだ。俺は真ん中突っ切るしか知らねえ。そんな危ない橋、お館様に渡らせられっかよ。俺が時間を稼ぐ。

軍師:しかし、いくらあなたでも…あの数を相手取るのは無茶だ。どうするつもりですか。

武神:その時はその時だ。皆まで言わせるな。

軍師:…わかりました。その代わり、あなたが死ぬのも無しだ。あなたがいなければこの戦況は覆せない。生きて戦場を駆けてください。

武神:へッ！誰に言ってんだよ！ならお前さんこそ、俺が死なねえ策をさっさと考えろよ。…んじゃ、ひと暴れすっかあー！

軍師:それと、

武神:チッ！なんだよ

軍師:まだ慰み酒に付き合ってもらっていませんからね。

武神:！？はっは一！悪酔いしても世話見ねえからな！

:

O:激戦が続き…

軍師:前線で生き残っている者は直ちに城内へ戻るよう伝えなさい！途中敵に遭遇しても相手にしないこと！攻めることは考えず、城内へ戻り、虎口にて守りに徹するのです！ここには我らが武神もいる！彼と共に降りかかる火の粉を払いなさい！

O:兵士数人帰還

軍師:よく帰ってきました！直ちに虎口へ向かってください！そこが最後の砦です！

O:虎口にて

武神:よっしゃぁお前ら！軍師様がありがてえ策を練ってくださったんだ！ここからが本番だ！ぜってえに崩すなよ！…ほおら来たぞ！いいか！初撃は俺が全部捌いて流してやる！お前らはそいつらを獲りきれ！城内にはネズミー一匹入れんじゃねーぞ！おりゃぁ！

O:ここから陣形を組んだ武神、味方兵vs敵兵の殺陣が入る

O:城内から見る軍師

軍師:(M)…やはり彼が出ると戦況は好転する。(M)しかしこの数の敵…押し切られることは目に見えている…。…お館様…逃げましょう…。これまでの犠牲を無駄にはできない！…あなた様に生きていてもらわねば皆も浮かばれません！こちらへ！

O:虎口にて

武神:…あいつの策すげえじゃねえか！いつもついてくるのがやっとのこいつらが、良い働きしてやがる！…が、それでも疲れが見えてるな。動きも悪くなってきた。そう長くは持たねえ…。ここを片付けてあっちの助けに…

O:味方兵負傷

武神:！？大丈夫か！？クソッ！盾持ってこい！構えろ！押し返せえ！！守れえ！

O:陣形がくずれる

武神:！？そいつらを止めろおおお！死んでも行かせるなあああ！

O:暗点

ここから声だけ

軍師:こちらです！急いで！彼らが食い止めております！今のうちに！…！？誰だ貴様らは！！お館様！危なッ…！！

武神:はぁはぁはぁ！…お館様！！…！？てめーら…てめーらあああ！！

:

O:某所、墓標の前

武神:あの戦からもう何年だ…？お館様も若様と代替わりだ。俺のお役目も終わったよ。まったく若いものの勢いときたら、俺の若い時より血の気が多いぞ。やれ口喧嘩だ一殴り合いだ一、ほんとに世話が焼けるったらありゃしねえ。その元気、戦まで取っとけてんだ。

武神:…でもな、お前さんみたいに肝の据わってるやつはまだいねえなあ。今の軍師はアイツらに気圧されて、ろくに指揮もできてねえ。そのくせ宴では一丁前に踊って歌ってばかりだ。呑まし甲斐が無え。

O:少しの間

武神: そうだ、お前さんの好きな酒、持ってきたぞ。ほれほれ…。…たしか、ちびちび飲むんだっ
たよな。そんなに旨いのか？少しもらうぞ。……、なんだよ。まったく旨くねえじゃねえか。ほ
んとなに考えてたんだかわかんねえやつだよ。

武神: …まあまた酒持って来てやるよ！…あ、でもまだ俺あそっちにや逝かないからな。せいぜい
独りで淋しく飲んでろよ。じゃあな。

武神: …これからどうすっかなあ…。酒でも造り始めっかあ。あれくらい、俺でもできるってんだ
よ。